

令和6年度おおさき人権フェス

主催 大崎町 大崎町教育委員会 鹿屋人権啓発活動地域ネットワーク



人権標語

最優秀賞
(三点)

大崎中学校 一年 假水 ひより
「投稿・拡散する前に
未来の自分を 考えて」

大崎中学校 二年 目黒 凛
「小さな勇気を 踏み出そう
それだけで 人の心は救われる」

大崎中学校 三年 中村 愛美
「周りと違っても
自分らしくあなたらしく
誰よりも輝く笑顔」



当たり前の怖さ

野方小学校 六年 玉川 心美

女子は男子を好きになる。男子は女子を好きになる。それが当たり前。そう思っていた。しかし、一冊の本との出会いで私の「当たり前」は一変した。

好きになる両性愛等、好きの形は色々あった。四つ目は表現する性。服装や仕草、話し方等自分自身をどの性で表現したいかということであった。

性になんにもたくさんの種類があることにもびっくりしたが、それよりもっと衝撃的だったのが、性的少数者と言われる方は「十一人に一人いる。」というデータであった。「そんなに多いの。」というおどろきと同時に「でも、私の周りには全くいないな。」という不思議な感覚にもなった。しかしその後先生の話を聞き、私の疑問は「ああそうか。」という納得に変わった。それは、性的少数者の多くの方は、人に打ち明けられずに一人で悩みを抱えているという事実であった。勇気をもってカミングアウトしても、気持ち悪がられたり、否定や差別をされたりして堂々と自分らしさを出せない人が大勢いるということであった。中には自信をなくし、心に深い傷をおい、自ら死を選ぶ人もいるそうだ。私はそのことを知り、怒りにも似た感情がわき上がってきた。なぜ自分自身の性を、好きを、決めることがいけない事なの

だろう。誰に迷惑をかけるわけでもなく、ただ自分らしくいたいだけ。その自由と権利は守られるべきものだと私は思う。「甘い物が好き。」と同じように、男子であろうと女子であろうと「スカートが好き。」「ヒーロー戦隊が好き。」と何でも堂々と見え、表現できる世の中の方が断然いいに決まっている。でもー。私自身を振り返ってみると、「当たり前」の眼鏡を通して物事を見ていたような気もする。もしかすると、気付かないうちに大切な誰かを傷つけてしまっていたかもしれない。そう考えると「知らない」ということや「当たり前」に疑問を感じないことは怖いことだとぞっとした。だからここから、その人をよく見て、話を聞いて、相手を思いやる気持ちをもっと大切にしよう。そして、悩んでいる人がいたらこう言いたい。「大丈夫。あなたはあなた。自信をもって。」

